



## 高度先進医療の推進に基づいた新しい救急医療システムを求めて

各診療科の専門医が常駐している大学附属病院の長所を生かして、コーディネーター型救急診療体制を整備。京大病院の将来構想である、「高度急性期医療の推進」と「高度先進医療」との両立を見据えたICUの拡張計画を踏まえ、重症患者に対する3次救急の拡充を目指している。さらに重症外傷、新興感染症、臓器移植医療、熱傷、敗血症、産科救急、高齢者救急など、さまざまな状況における救急医療体制の充足を目的としたプロジェクトを、関係部署と共同して推進中である。災害における医療救護活動DMAT (Japan Disaster Medical Assistance Team) に正式参加し、大規模災害に対する災害医療支援体制を整備。2011年に発生した東日本大震災においても、災害医療チームを派遣した。

### 代表的診療対象疾患

救急疾患一般

## 診療体制と治療実績

### 外来診療体制と実績

中央診療部門の一つである救急部では、各診療科の専門医が常駐している大学病院の長所を生かし、高度先進医療を常時実施することが可能な救急診療体制を確立している。当科には教授1名、講師2名、助教3名、医員3名、計9名の専任医師が配属され、応援医とともに救急部の運営にあっている。また、救急外来看護師3名、専属事務員3名が配置されており、迅速かつ円滑な診療が可能となっている。2014年度の救急外来受診者数は8,043人、救急車搬送台数は2,546台であった。また救急部からの入院患者数は2,125人であり、京大病院の全入院患者の約10%にあたる規模となっている。さらに、2015年度には大幅に増加することが見込まれる。

### 入院診療体制と実績

感染症・外傷・脳血管障害・中毒などの多様な急性疾患に対して診療を行っていったため、2008年に入院診療を一般病床5床より開始し、2016年からは専有病床13床に増床された。今後、ICUの拡張計画を踏まえ、重症患者に対する3次救急の拡充を目指している。

## 臨床研究の取り組み

### 多様な臨床研究を展開

核磁気共鳴(NMR; Nuclear Magnetic Resonance)を用いた新しい診断法の開発として、敗血症に関する研究、発熱に関する研究、さらには複数の科とそれぞれの領域における新たな診断法に関する共同研究を行っている。また院外心肺停止患者における近赤外線による無侵襲脳

局所酸素飽和度(rSO<sub>2</sub>; Regional Cerebral Oxygen Saturation)測定の有用性に関する多施設研究や、日本救急医学会における熱中症に関する全国調査への参加などを行っている。